

Denka

Possibility
of
chemistry

2021年度 第2四半期
(2022年3月期)
決算説明会資料

証券コード：4061

デンカ株式会社

2021年11月8日

1 2021年度 第2四半期 決算概要

① 連結サマリー	(前年比・8月予想比)	03
② 増減要因	(前年比)	04
③ 営業利益 増減要因グラフ	(")	05
④ セグメント別内訳	(")	06
⑤ セグメント別増減要因	(")	07-10
⑥ セグメント別内訳	(8月予想比)	11

2 2021年度 業績予想

① 連結サマリー	(期初予想比・前年比)	13
② 増減要因	(期初予想比)	14
③ 営業利益 増減要因グラフ	(")	15
④ セグメント別内訳	(")	16
⑤ セグメント別増減要因	(")	17-20
⑥ セグメント別内訳	(前年比)	21
⑦ 主要指標		22
⑧ 株主還元		23
⑨ (参考) 四半期推移 (セグメント別)		24
⑩ Denka Value-Up 2022年度数値目標		25

2021年度 第2四半期 決算概要

単位：億円	2020年度 上期 実績	2021年度 上期 実績	(前年比)	2021年度 上期 8月予想	(8月予想比)
売上高	1,603	1,911	+ 308	1,850	+ 61
営業利益	121	252	+ 132	220	+ 32
営業利益率	7.5%	13.2%	+ 5.7%	11.9%	+1.3%
経常利益	123	237	+ 114	200	+ 37
純利益	100	180	+ 80	150	+ 30

Denka Value-Upの施策が功を奏し、上期の過去最高益を大幅に更新

売上高

1,911億円

前年比（億円）

+ 308

- | | |
|--|-------|
| 1. 数量差：需要拡大・伸長（新型コロナ抗原迅速診断キット、xEV・半導体関連製品、他）
新型コロナウイルス影響からの需要回復（クロロプレンゴム、他） | + 312 |
| 2. 売価差：原材料価格上昇に伴うスチレン系製品販売価格改定等 | + 154 |
| 3. その他：収益認識に関する会計基準変更（グループ商社売上高変更など） | △ 157 |

営業利益

252億円

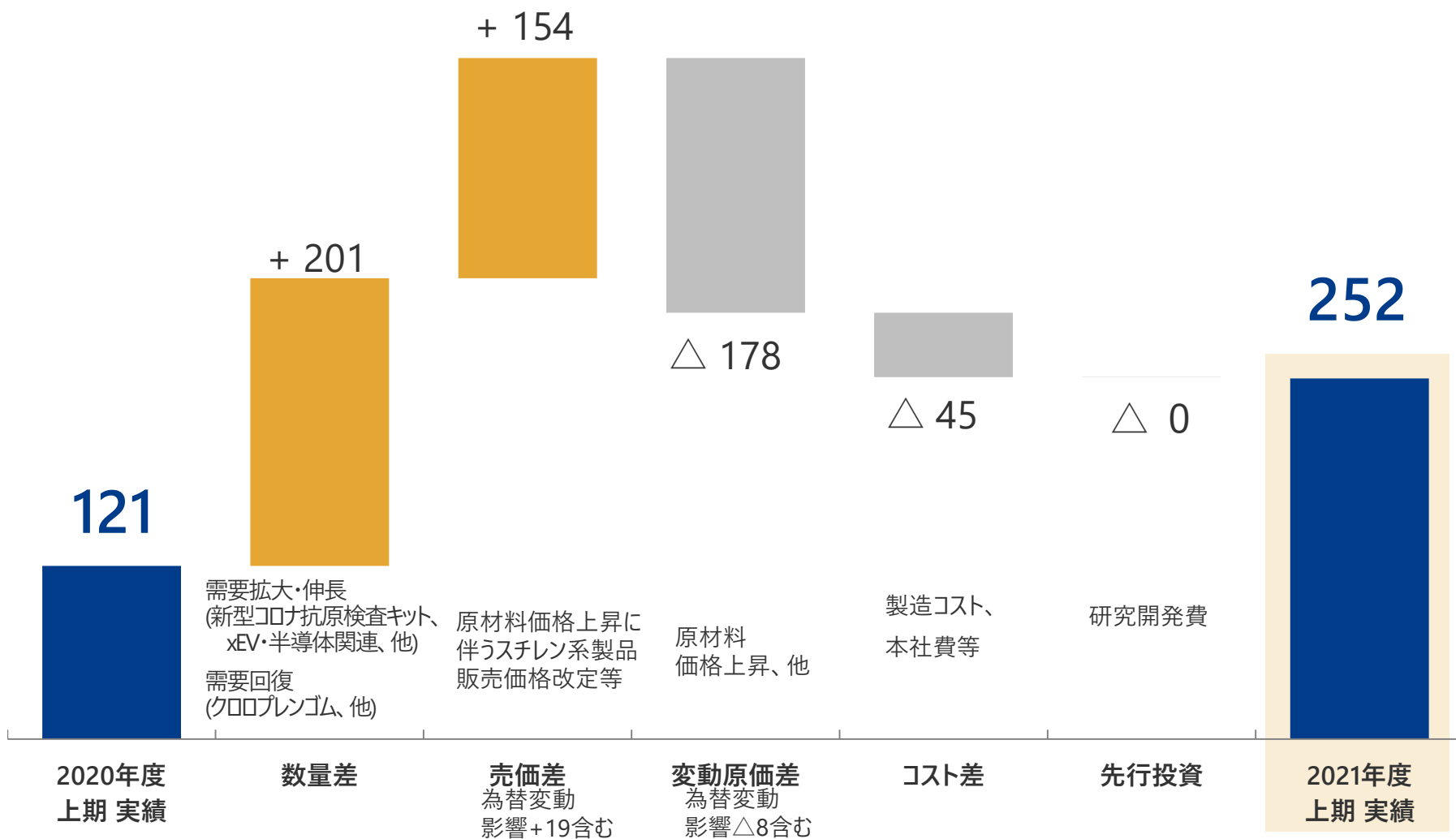
前年比（億円）

+ 132

- | | |
|--|-------|
| 1. 数量差：需要拡大・伸長（新型コロナ抗原迅速診断キット、xEV・半導体関連製品、他）
新型コロナウイルス影響からの需要回復（クロロプレンゴム、他） | + 201 |
| 2. 売価差：原材料価格上昇に伴うスチレン系製品販売価格改定等（為替変動影響+19含む） | + 154 |
| 3. 変動原価差：原材料価格上昇、他（為替変動影響△8含む） | △ 178 |
| 4. コスト差：製造コスト、本社費等 | △ 45 |
| 5. 先行投資負担等：研究開発費 | △ 0 |

需要の回復・拡大・伸長による数量差プラスが
スプレッド※悪化、コスト増加を大幅に上回り増益

単位：億円



営業利益が昨年度から倍増

売上高 単位：億円	2020年度 上期実績		2021年度 上期実績		増減	売価差	数量差	その他※
	2020年度 上期実績	2021年度 上期実績	2020年度 上期実績	2021年度 上期実績				
電子・先端プロダクツ	367	438	367	438	+ 71	+ 13	+ 78	△ 19
ライフイノベーション	162	253	162	253	+ 91	△ 4	+ 96	△ 1
エラストマー・インフラソリューション	418	514	418	514	+ 96	+ 7	+ 101	△ 12
ポリマーソリューション	504	632	504	632	+ 128	+ 138	△ 5	△ 4
その他 / 消去差	152	75	152	75	△ 78	-	+ 42	△ 120
合計	1,603	1,911	1,603	1,911	+ 308	+ 154	+ 312	△ 157

※収益認識に関する会計基準変更

営業利益 単位：億円	2020年度 上期実績		2021年度 上期実績		増減	売価差	数量差	コスト差等
	2020年度 上期実績	2021年度 上期実績	2020年度 上期実績	2021年度 上期実績				
電子・先端プロダクツ	66	92	66	92	+ 26	+ 13	+ 41	△ 28
ライフイノベーション	24	107	24	107	+ 83	△ 4	+ 91	△ 4
エラストマー・インフラソリューション	△1	0	△1	0	+ 2	+ 7	+ 52	△ 57
ポリマーソリューション	29	43	29	43	+ 15	+ 138	+ 10	△ 133
その他 / 消去差	3	9	3	9	+ 6	-	+ 6	△ 0
合計	121	252	121	252	+ 132	+ 154	+ 201	△ 223

ライフイノベーションと電子・先端プロダクツが大幅増益に貢献

単位：億円			2020年度 上期 実績	2021年度 上期 実績	増 減	売価差	数量差	コスト差等	2021年度 上期 8月予想
売	上	高	367	438	+ 71	+ 13	+ 78	△ 19 [※]	430
営	業	利 益	66	92	+ 26	+ 13	+ 41	△ 28	80

※収益認識に関する会計基準変更

製品別販売動向・コスト

販売動向

- 球状アルミナ
 - ・ xEV関連、5G通信関連の需要が伸長
 - ・ シンガポールでの新設備一部稼働効果（2022年3月完工予定）
- アセチレンブラック
 - ・ xEV関連用途や、洋上風力発電向け高圧ケーブル用途の需要が堅調に推移
- セラミックス基板
 - ・ 新型コロナウイルスの影響が続いている電鉄向けの需要回復が遅れている
- 溶融シリカ
高機能フィルム
 - ・ 5G通信やデータセンター需要の拡大を背景に、半導体関連製品の出荷が前年を上回る

- ### コスト
- ・ 原材料価格上昇（→11月から溶融シリカを値上げなど）
 - ・ 更なるスペシャリティー化の進展のための費用
（増産体制構築による費用増加や、販売体制強化による費用増加など）

**原材料価格上昇などコストが悪化するも
xEV、5G通信、半導体関連製品のメガトレンドを捉え増益**

単位：億円			2020年度 上期 実績	2021年度 上期 実績	増減	売価差	数量差	コスト差等	2021年度 上期 8月予想
売	上	高	162	253	+ 91	△ 4	+ 96	△ 1 ※	240
営	業	利 益	24	107	+ 83	△ 4	+ 91	△ 4	85

※収益認識に関する会計基準変更

製品別販売動向・コスト

販売動向

新型コロナウイルス 抗原迅速診断キット

- 新型コロナウイルス感染症対策の一環として 迅速な抗原検査体制の充実を図る厚生労働省の配布事業に供給したことにより、販売数量は大幅に増加（昨年8月に販売開始）

その他検査試薬

- 中国向けの需要回復に加えて、欧米での新型コロナ感染者のコロナ以外の検査需要増加

インフルエンザワクチン

- 昨年との製造株の違いや、世界の製薬会社が新型コロナウイルスワクチン増産に動いたことによるワクチン生産用資材の不足などにより、出荷数量が昨年を下回る

新型コロナウイルス抗原迅速診断キットが大幅増益を牽引

単位：億円			2020年度 上期 実績	2021年度 上期 実績	増 減	売価差	数量差	コスト差等	2021年度 上期 8月 予想
売	上	高	418	514	+ 96	+ 7	+101	△ 12 [※]	510
営	業	利 益	△1	0	+ 2	+ 7	+ 52	△ 57	5

※収益認識に関する会計基準変更

製品別販売動向・コスト

販売動向

- クロロプレングム
 - 産業用途、接着材用途、自動車用途などの需要が堅調に回復
- 特殊混和材
 - 民間建設工事の落ち込みなどにより、出荷数量が前年を下回る
- セメント
 - 民需低調の継続に加え、災害復旧需要などの官需も昨年を下回る

コスト

- 原材料価格上昇
 - ：ブタジエン・塩素・コークス（クロロプレングム）、石炭（セメント）、他

クロロプレングムの需要が大幅に回復

単位：億円			2020年度 上期 実績	2021年度 上期 実績	増減	売価差	数量差	コスト差等	2021年度 上期 8月予想
売	上	高	504	632	+ 128	+ 138	△ 5	△ 4 [※]	620
営	業	利 益	29	43	+ 15	+ 138	+ 10	△133	45

※収益認識に関する会計基準変更

製品別販売動向・コスト

販売動向

MS樹脂

- TVやモニターなどの導光板用途や、化粧品容器などその他の用途において、需要が堅調に推移（PS樹脂は、MS樹脂製造設備への転用・改造工事実施により、出荷数量が前年を下回る）

AS・ABS・ 透明樹脂など

食包シート・容器

Toyokalon

- 新型コロナウイルスのマイナス影響からの回復により、出荷数量が前年を上回る

コスト

- 原材料価格上昇（エチレン、ベンゼン、他）

**原材料価格上昇もスプレッドを維持したことに加え
需要回復による出荷増により増益**

売上高 単位：億円	2021年度 上期 8月予想	2021年度 上期 実績	増減	売価差	数量差
	電子・先端プロダクツ	430	438	+ 8	+ 3
ライフイノベーション	240	253	+ 13	+ 2	+ 10
エラストマー・インフラソリューション	510	514	+ 4	+ 0	+ 4
ポリマーソリューション	620	632	+ 12	+ 1	+ 11
その他 / 消去差	50	75	+ 25	-	+ 25
合計	1,850	1,911	+ 61	+ 7	+ 55

営業利益 単位：億円	2021年度 上期 8月予想	2021年度 上期 実績	増減	売価差	数量差	コスト差等
	電子・先端プロダクツ	80	92	+ 12	+ 3	+ 3
ライフイノベーション	85	107	+ 22	+ 2	+ 16	+ 4
エラストマー・インフラソリューション	5	0	△ 5	+ 0	△ 3	△ 2
ポリマーソリューション	45	43	△ 2	+ 1	+ 2	△ 4
その他 / 消去差	5	9	+ 4	-	+ 4	+ 0
合計	220	252	+ 32	+ 7	+ 22	+ 3

インフルエンザワクチンの出荷前倒しに加え
半導体関連製品の販売も想定を上回り増益

2021年度 業績予想

単位：億円	2021年度 期初予想	2021年度 今回予想	(期初予想比)	2020年度 実績	(前年比)
売上高	3,650	3,950	+ 300	3,544	+ 406
営業利益	420	440	+ 20	347	+ 93
営業利益率	11.5%	11.1%	△ 0.4%	9.8%	+ 1.3%
経常利益	390	400	+ 10	321	+ 79
純利益	290	290	± 0	228	+ 62

最高益を目指すとした期初予想からさらに増益を見込む

売上高

3,950億円

期初予想比（億円）

+300

- | | |
|---|-------|
| 1. 数量差：プラス要因（半導体関連製品等の上振れ） | |
| マイナス要因（米国DPEハリケーンアイダ影響、インフルワクチンの下振れなど一過性） | + 30 |
| 2. 売価差：新型コロナウイルス抗原迅速診断キット、
原材料価格上昇に伴うスチレン系製品販売価格改定、他 | + 270 |

営業利益

440億円

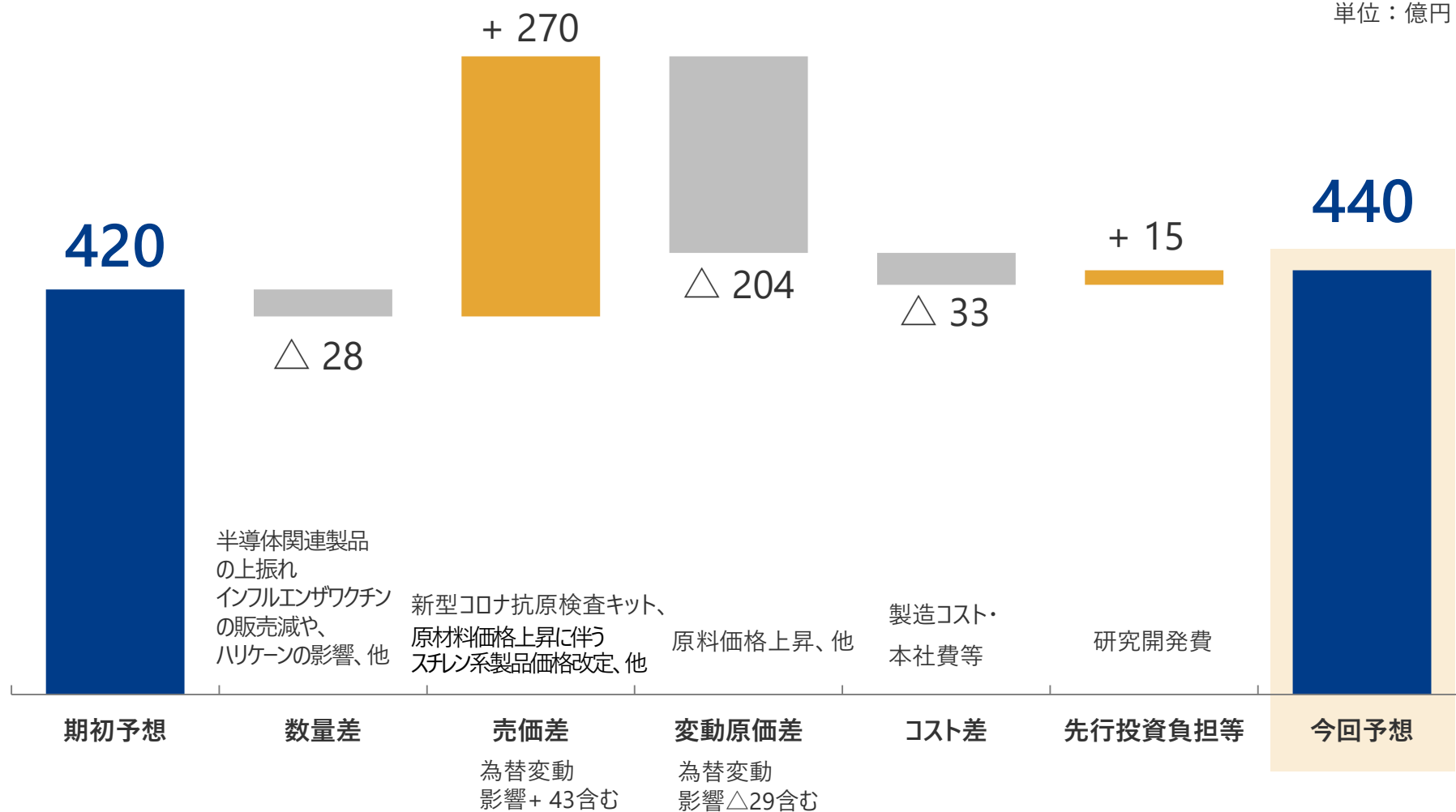
期初予想比（億円）

+20

- | | | |
|------------|--|-------|
| 1. 数量差 | ：プラス要因（半導体関連製品等の上振れ） | |
| | マイナス要因（米国DPEハリケーンアイダ影響 約△25億円、
インフルワクチンの下振れなど一過性） | △ 28 |
| 2. 売価差 | ：新型コロナウイルス抗原迅速診断キット、
原材料価格上昇に伴うスチレン系製品価格改定、他（為替変動影響 + 43含む） | + 270 |
| 3. 変動原価差 | ：原材料価格上昇、他（為替変動影響△29含む） | △ 204 |
| 4. コスト要因 | ：製造コスト、本社費等 | △ 33 |
| 5. 先行投資負担等 | ：研究開発費 | + 15 |

**米国DPEハリケーンアイダなど一過性のマイナス影響を、
新型コロナウイルス抗原迅速診断キットの売価差などのプラス影響が上回る**

単位：億円



米国DPEハリケーンアイダなど一過性のマイナス影響を、
 新型コロナ抗原迅速診断キットの売価差などのプラス影響が上回る

売上高 単位：億円	2021年度 期初予想	2021年度 今回予想	増減	売価差	数量差
電子・先端プロダクツ	850	900	+ 50	+ 22	+ 28
ライフイノベーション	400	500	+ 100	+ 88	+ 12
エラストマー・インフラソリューション	1,050	1,100	+ 50	+ 32	+ 18
ポリマーソリューション	1,250	1,300	+ 50	+ 127	△ 77
その他 / 消去差	100	150	+ 50	-	+ 50
合計	3,650	3,950	+ 300	+ 270	+ 30

営業利益 単位：億円	2021年度 期初予想	2021年度 今回予想	増減	売価差	数量差	コスト差等
電子・先端プロダクツ	170	185	+ 15	+ 22	+ 18	△ 25
ライフイノベーション	105	155	+ 50	+ 88	△ 32	△ 6
エラストマー・インフラソリューション	40	△10	△ 50	+ 32	△ 19	△ 63
ポリマーソリューション	95	95	± 0	+ 127	+ 1	△ 128
その他 / 消去差	10	15	+ 5	-	+ 5	△ 0
合計	420	440	+ 20	+ 270	△ 28	△ 222

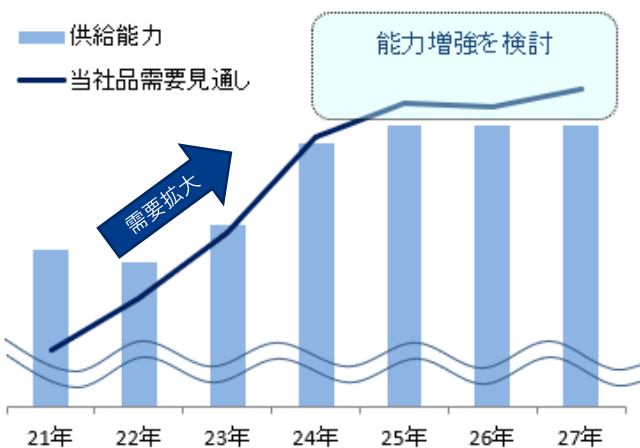
米国ハリケーンアイダの影響を受けたエラストマー・インフラソリューションは赤字の見込みも
ライフイノベーション、電子・先端プロダクツの増益が上回る

単位：億円	2021年度 期初予想	2021年度 今回予想	増減
売上高	850	900	+50
営業利益	170	185	+15
(利益差異内訳)			
売価差	数量差	コスト差等	計
+22	+18	△25	+15

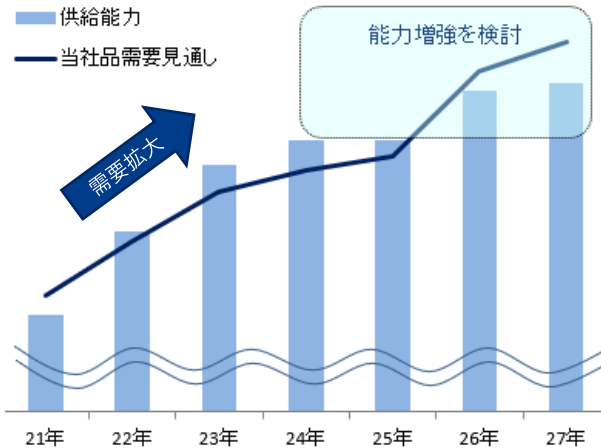
販売動向	
球状アルミナ	<ul style="list-style-type: none"> 需要が伸長しているxEV関連、5G通信関連は期初予想並みを見込む シンガポールでの新設備一部稼働効果も期初予想並み
アセチレンブラック	<ul style="list-style-type: none"> xEV関連用途や、洋上風力発電向け高圧ケーブル用途の需要が堅調に推移 (製造拠点：千葉、大牟田、シンガポール)
セラミックス基板	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響が続いている電鉄向けの需要回復の遅れを織り込む
溶融シリカ 高機能フィルム	<ul style="list-style-type: none"> 5G通信やデータセンター需要の拡大を背景に、半導体関連製品は、期初予想に対する出荷の上振れを見込む

市場動向

アセチレンブラック「高圧ケーブル用途など」の需要見通しと当社供給能力



アセチレンブラック「LiB用途」の需要見通しと当社供給能力



当社アセチレンブラック
グローバルシェア

LiB正極用導電助剤として
世界シェアNo. 1

高圧ケーブル用導電材として
世界シェアNo. 1

⇒ デファクトスタンダード

半導体関連製品の需要が想定を上回り増益

単位：億円	2021年度 期初予想	2021年度 今回予想	増減
売上高	400	500	+100
営業利益	105	155	+50
(利益差異内訳)			
売価差	数量差	コスト差等	計
+88	△32	△6	+50

販売動向	
新型コロナウイルス 抗原迅速診断キット	<ul style="list-style-type: none"> • 期初予想を上回る売価 • 国内向けは、高齢者施設でのスクリーニング検査などによる需要の広がりを織り込んだ期初の想定数量を日本政府への供給により実現 • 足元での新規感染者減による変動リスクあり • 海外向けは、展開の遅れにより出荷減の見込み（米国で11月から販売開始。他地域でも順次展開）
その他検査試薬	<ul style="list-style-type: none"> • 中国向けの需要回復に加えて、欧米での新型コロナ感染者のコロナ以外の検査需要増加の動きがあり、想定を上回る見込み
インフルエンザワクチン	<ul style="list-style-type: none"> • 昨年との製造株の違いや、世界の製薬会社が新型コロナウイルスワクチン増産に動いたことによるワクチン生産用資材の不足などにより、出荷数量が下回る見込み

市場動向

新型コロナウイルス抗原検査体制の強化に関する主な行政対策

日付	行政通知内容	発出元
2021年1月22日	高齢者施設における抗原キットの推奨	厚生労働省
6月9日	高齢者施設等への抗原キットの配布事業	〃
8月13日	職場における積極的な検査の促進	〃
8月25日	学校等での抗原定性検査の実施	文部科学省
9月27日	薬局での医療用抗原検査キットの販売	厚生労働省

<<< 抗原検査キット需要の裾野が広がる >>>

迅速診断キット製品群の展開



1日最大13万検査分の生産体制を構築

インフルエンザワクチンの出荷本数が期初予想を下回るも
 新型コロナウイルス抗原迅速診断キットが大幅増益を牽引

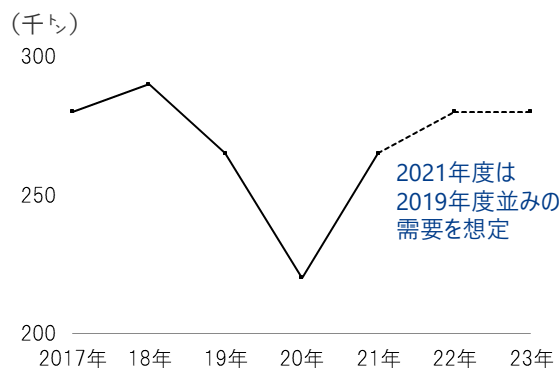
単位：億円	2021年度 期初予想	2021年度 今回予想	増減
売上高	1,050	1,100	+50
営業利益	40	△10	△50
(利益差異内訳)			
売価差	数量差	コスト差等	計
+32	△19	△63	△50

販売動向

- 医療用手袋用途は一時的な減速も見られるが、産業用途、接着材用途、自動車用途などの需要が堅調に回復し、想定を上回る見込み。
 - 2021年8月から値上げ
(輸出+500 円/t以上・+450€/t以上、国内+38円/kg以上)
 - ハリケーンアイダによる影響：DPEにて約△25億円
(サプライチェーンの影響に伴う一過性の生産数量減)
- クロロプレングム
- 特殊混和材
- 概ね期初予想並みの見込み
- セメント
- 概ね期初予想並みの見込み
2022年1月から値上げ (+2,300円/kg)

市場動向

クロロプレングム世界需要 (当社推定)



当社グローバルシェア
No. 1 (約4割)

産業用ベルト、建機用
ホース、ベルトコンベア、
自動車、接着剤、
グローブなどの用途として
全世界に幅広く供給

アグリ分野

バイオスティミュラント「レコルト™」を10月から国内で本格販売開始
～独自製法の活性フルボ酸により作物の活性化効果を付与～

世界におけるバイオスティミュラント市場規模予測*

- ・2022年に約33億USドルへ拡大
- ・成長率は年率10.4%

* Markets and Markets 2017年



バイオスティミュラント「レコルト™」

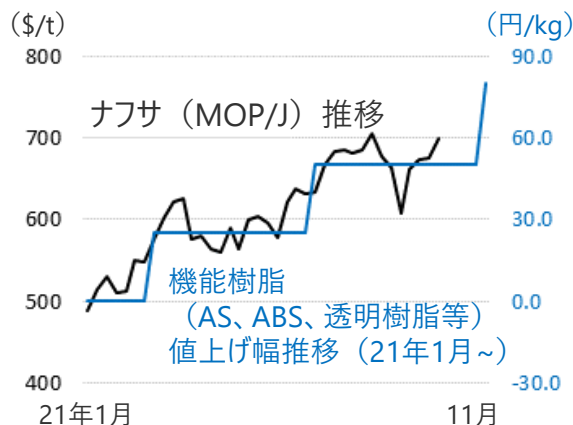
クロロプレングムの需要が想定を上回り回復するも
米国ハリケーンアイダの影響や原材料価格上昇により大幅減益を見込む

単位：億円	2021年度 期初予想	2021年度 今回予想	増減
売上高	1,250	1,300	+50
営業利益	95	95	±0
(利益差異内訳)			
売価差	数量差	コスト差等	計
+127	+1	△128	±0

販売動向	
MS樹脂	<ul style="list-style-type: none"> TVなどの導光板用途の需要一巡により期初予想を下回る。照明用途や化粧品容器などその他の用途が拡大（MS樹脂の特性：寸法安定性、低比重、良成型性など）
AS・ABS・透明樹脂など	<ul style="list-style-type: none"> 期初予想の想定を上回る需要回復により販売数量が上回る見込み
食包シート・容器	<ul style="list-style-type: none"> 概ね期初予想並みの見込み（原材料価格上昇に伴い、値上げ実施）
Toyokalon	<ul style="list-style-type: none"> アフリカ市場、アメリカ市場共に需要回復が継続 概ね期初予想並みの見込み

市場動向

原料価格と当セグメントの価格改定



【当社取り組み】

- ・段階的に値上げをリリース（ポリビニルアルコール、食包シート・BOPS AS・ABS・透明樹脂等）
- ・原料価格に連動した売価契約（スチレンモノマー、他）
- ・原料価格に応じた価格交渉（その他製品）

⇒ スプレッド維持

プラスチックのサーキュラーエコノミー「ケミカルリサイクル」



原材料価格上昇もスプレッドを維持し、期初予想並みの営業利益を見込む

売上高 単位：億円	2020年度 実績	2021年度 今回予想	増減		分解		
					売価差	数量差	その他※
電子・先端プロダクツ	777	900	+	123	+ 43	+ 114	△ 35
ライフイノベーション	429	500	+	71	△ 5	+ 77	△ 1
エラストマー・インフラソリューション	919	1,100	+	181	+ 50	+ 153	△ 22
ポリマーソリューション	1,099	1,300	+	201	+ 319	△ 111	△ 7
その他 / 消去差	320	150	△	170	-	+ 81	△ 251
合計	3,544	3,950	+	406	+ 406	+ 315	△ 315

※収益認識に関する会計基準変更

営業利益 単位：億円	2020年度 実績	2021年度 今回予想	増減		分解		
					売価差	数量差	コスト差等
電子・先端プロダクツ	142	185	+	43	+ 43	+ 73	△ 73
ライフイノベーション	148	155	+	7	△ 5	+ 37	△ 25
エラストマー・インフラソリューション	△36	△10	+	26	+ 50	+ 42	△ 66
ポリマーソリューション	84	95	+	11	+ 319	+ 10	△ 318
その他 / 消去差	8	15	+	7	-	+ 7	△ 0
合計	347	440	+	93	+ 406	+ 169	△ 483

メガトレンドを背景に需要が伸長する電子・先端プロダクツが大幅増益に貢献

単位：億円	2020年度 第2四半期 実績 (4-9月)	2021年度 第2四半期 実績 (4-9月)	2020年度 通期 実績 (4-3月)	2021年度 通期 期初予想 (4-3月)	2021年度 通期 今回予想 (4-3月)
投資	171	154	423	430	430
減価償却費	115	115	229	235	235
研究開発費	74	74	147	160	145
有利子負債残高	1,405	1,315	1,382	1,370	1,370
	2020年度 第2四半期 実績 (4-9月)	2021年度 第2四半期 実績 (4-9月)	2020年度 通期 実績 (4-3月)	2021年度 通期 期初予想 (4-3月)	2021年度 通期 今回予想 (4-3月)
為替レートの (円/\$)	106.8	109.9	105.8	108.0	111.8
国産ナフサ (円/キリトル)	28,250	50,800	31,800	46,000	56,600

スペシャリティー事業への戦略投資を継続

		2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 今回予想
当期純利益	(億円)	230	250	227	228	290
1株当たり配当*	(円/株)	105.0	120.0	125.0	125.0	145.0
						中間70.0 期末75.0
配当額	(億円)	92	105	108	108	125
配当性向		40%	42%	48%	47%	43%
自己株取得	(億円)	23	21	-	-	
総還元額	(億円)	115	126	108	108	
総還元性向		50%	50%	48%	47%	総還元性向 50%の方針 を維持
減価償却額		246	229	225	229	235
設備投資・投融資額	(億円)	270	328	369	423	430
ROE		10.0%	10.3%	9.1%	8.8%	10.4%

*当社は、2017年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施したため、1株当たり配当は各期と比較しやすくするために、株式併合後の数値に換算した金額を表示。

1株当たり配当は、期初予想の135円から145円へ10円増配

売上高 単位：億円	2019年度				2020年度				2021年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	下期予想 (3Q・4Q)
電子・先端プロダクツ	173	200	183	200	171	196	200	211	210	228	462
ライフイノベーション	51	99	137	68	53	109	205	63	60	193	247
エラストマー・インフラソリューション	269	276	249	261	198	220	248	252	246	268	586
ポリマーソリューション	324	335	305	315	253	251	283	313	318	315	668
その他 / 消去差	91	101	92	77	87	65	82	85	35	40	75
合計	909	1,011	967	921	762	841	1,017	924	867	1,044	2,039

営業利益 単位：億円	2019年度				2020年度				2021年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	下期予想 (3Q・4Q)
電子・先端プロダクツ	26	33	28	40	28	38	36	40	44	48	93
ライフイノベーション	1	24	38	6	0	24	114	10	3	104	48
エラストマー・インフラソリューション	21	10	0	8	3	△4	△19	△15	1	△0	△10
ポリマーソリューション	18	20	15	19	13	16	25	30	26	18	52
その他 / 消去差	2	△0	5	3	0	3	3	2	4	5	6
合計	67	86	87	76	44	77	160	67	77	175	188

営業利益

単位：億円

	2020年度 実績	2021年度 今回予想	2022年度 経営計画	前年比
電子・先端プロダクツ	142	185	220	+35
ライフソリューション	148	155	110	△45
エラストマー・インフラソリューション	△36	△10	70	+80
ポリマーソリューション	84	95	110	+15
その他 / 消去差	8	15	△10	△25
合計	347	440	500	+60

主な施策

球状アルミナ	：xEV・5G通信関連需要加速、 シンガポール増設効果（2022年3月完工予定）
アセチレンブラック	：xEV・洋上風力発電向け高圧ケーブル用途の需要加速、 安価用途から高付加価値用途への更なるシフト
インフルエンザワクチン 検査試薬	：2022年シーズンから原液製造新棟稼働 ：製品ラインナップ拡充、 検査需要回復（中国向け炎症マーカーなど）
新型コロナ検査キット	：売価下落リスク織り込み
がん治療用ウイルスG47Δ製剤「デリタクト®注」	：2021年10月出荷開始 （2023年度以降の本格寄与期待）
クロロプレングム	：需要回復、価格改定、 ハリケーンアイダ影響（一過性）の解消
セメント	：価格改定、資源リサイクル増（都市焼却灰受け入れ増）
特殊混和材	：リニア新幹線向け増、 トンネル工事用粉塵対策品「クリアショット」拡販注力
MS樹脂	：導光板用途はTVやモニター向けに加え、 照明向けなどの需要が伸長、 化粧品容器などその他の用途の需要が拡大
IP	：シンガポールでの生産能力倍増(2021年7月稼働開始) ：高付加価値グレード拡販（自動車内外装材用途など）
（グループ全体の労働条件改善による労務費アップ含む）	

※「デリタクト」は第一三共株式会社の登録商標です。

営業利益500億円達成に向けて、Denka Value-Upのスペシャリティー戦略を完遂

業績予想の適切な利用に関する説明

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

Possibility of chemistry

Denka

本資料に関するお問い合わせ先

デ ン カ 株 式 会 社
コーポレートコミュニケーション部

TEL

03-5290-5511

URL

<https://www.denka.co.jp>